第12回 12/14 「ネット時代の読書 テクノロジー、カルチャー、ビジネスの変化」

橋本 大也（はしもと・だいや）先生　　データセクション株式会社　取締役会長

データセクション株式会社 取締役会長
株式会社早稲田情報技術研究所 取締役
株式会社メタキャスト取締役
株式会社日本技芸取締役
デジタルハリウッド大学教授「リサーチ&プランニング」
多摩大学大学院経営情報学研究科客員教授
「知識イノベーション論」。
主な著書に『情報力』『情報考学--WEB 時代の羅針盤 213 冊』『新･データベースメディア戦略。』『アクセスを増やすホームページ革命術』『ブックビジネス 2.0』等
個人ブログ　情報考学　http://www.ringolab.com/note/daiya/
ブログをやっております。書評が１７００冊超えました。

《講義概要》

IT ビジネスの企業家でありデータセクション株式会社取締役会長として様々な場で活躍する橋本大也氏が、ネット時代の読書について講義を行った。

講義では、ネット時代における読書環境の変化について、テクノロジー・カルチャー・ビジネスの３つの観点から分かりやすく説明した。単にテキストをデジタル化しただけでなく、新しいメディアの形として開発された電子書籍について、その最新の読書方法を多数紹介するとともに、読書体験を共有するソーシャル・リーディングの可能性について言及した。また、検索とリンクによる本との新しい出会い方や読書テクノロジーの変化についても紹介し、学生に幅広い知識と考え方を示した。

さらに、今後の電子出版とコンテンツ産業の可能性について詳しく解説し、学生は電子書籍の魅力や奥の深さを実感するとともに、出版ビジネスについて新たな視点で考えることを学んだ。最後には、情報の溢れるネット時代において、「じっくり深く考えること」や「むさぼるように情報を収集し向き合うこと」が重要なポイントであることを強く訴えた。

《受講生の感想》

●「文学の質が変わる」という言葉はとても印象的だった。「ネットによって知らないことはなくなるが、その分だけ深く追求した知識を持つ人が求められるのではないか」という言葉はとても納得できた。現在は効率よく考えることができる環境なのだと感じた。

立命館大学・法学部・3回生

●「むさぼるように情報と向き合う」という言葉が印象的でした。「むさぼる」ように読書をしたことがないので、一度やってみようと思う。いかに繋がり、向き合い、むさぼるかが大切であることを知った。

立命館大学・法学部・3回生

●あと数年で本はデジタル化し、友人だけでなく、その本を読んだ読者、さらにはツイッターで作者とも繋がるというお話を聞いて、受け手が一方的に情報を享受する時代は終わりを迎えると感じました。全ての人が情報提供者であり、リアルタイムで情報交換ができるようになることで、書籍はより活性化していくのではないかと思います。

立命館大学・産業社会学部・4回生

●あらゆるものがデータ化される時代に入ったのだなと感じましたが、データ化するということはそれだけコピーが容易になるということなので、著作権の問題やデータの取り扱いが今後ますます重要になっていくのではないかと思いました。

立命館大学・映像学部・4回生

●単に本を読むというだけでなく、ＳＮＳなどのインターネットと連動させることで読書と情報収集・発信が同時に行われるという大きな変化が起きていることや、本についての感想や情報を共有する動きが起きていることが分かった。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●SNS の発展によって本の読み方、買い方、売り方など大きな転換期にあると感じました。今まで以上にネットワークを通して本、活字が身近なものになるのではないかと思いました。それに伴って私たちは本や検索の知識、リテラシーなどが必要になってくると思いました。　立命館大学・産業社会学部・1回生